富 監 第 6 9 号 令和7年10月29日

富田林市喜志財産区管理者 富田林市長 吉村 善美 様

 富田林市監査委員

 中川
 元

 花岡
 秀行

 寺内
 裕介

令和6年度富田林市喜志財産区特別会計決算審査意見について

地方自治法第233条第2項の規定により審査に付された、令和6年度富田 林市喜志財産区特別会計歳入歳出決算(歳入歳出事項別明細書、実質収支に関 する調書、財産に関する調書)及びその他付属書類について審査した結果、次 のとおり意見を提出する。

令和6年度 富田林市喜志財産区特別会計決算審査意見

第1 審査の対象

令和6年度 富田林市喜志財産区特別会計決算

第2 審査の期間

令和7年9月3日から令和7年9月26日

第3 審査の方法

審査にあたっては、市長から提出された歳入歳出決算書、歳入歳出事項別明 細書、実質収支に関する調書及び財産に関する調書が地方自治法及び関係法令の規定にしたがって作成されているか、また、決算計数が正確であるか等を確認するため関係諸帳簿及び証拠書類を照合し、併せて予算の執行が適正かつ効果的に行われているかどうかを主眼として実施した。

第4 審査の結果

審査に付された令和6年度の歳入歳出決算書、歳入歳出事項別明細書、実質 収支に関する調書及び財産に関する調書は、地方自治法その他関係法令に準拠 して作成され、決算の計数も関係諸帳簿、証拠書類と符合し正確であり、本年 度の決算を適正に表示していることを認めた。

第5 決算総括

喜志財産区特別会計歳入決算額は8,035,285円、歳出決算額は8,035,285円 で歳入歳出差引額は0円である。

歳入では財産収入及び繰入金が、歳出では議会費及び総務費がそれぞれ減少しており、主な要因は歳入では栗ケ池仮線路用地等の賃貸借料の減、歳出では選挙費の皆減によるものである。

前年度に比べ歳入・歳出ともにそれぞれ 380,659 円 (4.5%) の減少となった。 公有財産においては、令和6年度中の増減はなかった。

基金については、本年度も取崩額が積立額を上回り、577 千円減少しているが、 前年度に比べ、基金の減少額は縮小している。

今後も健全な財産区運営を念頭に、基金の計画的な活用に努められたい。

喜志財産区は所有する財産の管理等について、今後も引き続き地方自治法第296条の5第1項の主旨に則り、財産区住民の福祉の増進を図るとともに、市との一体性を損なうことのないよう努められたい。また、財産区財産につい

て、常に良好な状態を維持すべく適切にこれを管理し、その目的に応じた最も 効果的な財産区事業の運営に取り組まれることを望むものである。

第6 収支状況

1 歳入

決算額は803万5千円で、前年度(841万6千円)と比較すると38万1千円の減少となり、予算現額に対する収入率は76.7%である。各款別における歳入の状況は [表 1] のとおりである。

〔表 1〕 (単位:千円・%)

(1 国: 11; 70)										
区分			6年度			5年度	増減	冲 /中华		
			予算現額	決算額	収入率	決算額	增	増減率		
使用	料及	び手	数料	6	4	69.8	4		0.0	
財	産	収	入	3,726	3,725	100.0	3,813	△ 8	$\triangle 2.3$	
繰	入		金	6,744	4,306	63.9	4,599	△ 29	\triangle 6.4	
繰	越		金	0	0	0.0	0		0 –	
諸	収		入	1	0	0.0	0		0 -	
	計			10,477	8,035	76.7	8,416	△ 38	1 △ 4.5	

2 歳出

決算額は803万5千円で、前年度(841万6千円)と比較すると38万1千円の減少となり、予算現額に対する執行率は76.7%である。各款別における歳出の状況は「表2」のとおりである。

〔表 2〕 (単位:千円・%)

	区分		6年度			5年度	増減	増減率
	上 刀		予算現額	決算額	執行率	決算額	增	1
議	会	費	1,025	960	93.7	1,064	△ 104	△ 9.8
総	務	費	9,152	7,075	77.3	7,352	△ 277	△ 3.8
予	備	費	300	0	0.0	0	0	_
	計		10,477	8,035	76.7	8,416	△ 381	\triangle 4.5

議会費で10万4千円の減、総務費で27万7千円の減となった。これは、選挙費の皆減などによるものである。

第7 財産に関する調書

- 1 公有財産
- (1) 土地
 - 6年度末現在高は117,566.9 m²であり、6年度中の増減はなかった。

(2) 建物

6年度末現在高は325 m²であり、6年度中の増減はなかった。

2 備品

6年度末現在高は0台であり、6年度中の増減はなかった。

3 基金

年度当初の現在高は 3,815 万 9 千円で、積立金が 372 万 9 千円であったが、 取崩額が 430 万 6 千円あったことにより、年度中で 57 万 7 千円の減となり、6 年度末残高は 3,758 万 2 千円であった。